

## 川崎支部便り 第 87 号 (2025 年 04 月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：山岸))

## 人生を豊かに (雑学のすすめ)

## 【祖父母は ATM?】

私は孫にお金や財産のような有形資産を残すのは、孫のやる気、意欲、努力を損なうのでお勧めできないと思っています。それより祖父母が残すべきは、無形財産です。自分が経験から得た知恵、仕事で成し遂げた経験、信頼できる人脈をどう作るかなどは将来孫の人生で役に立つかもしれませんが。必ず役に立つ保証はありませんが、それで良いのです。

そして何よりも、もっと普遍的な教えることが重要です。「人を助けることができる時に助けることは、自分にとって一番幸せなこと」、「約束を必ず守るようには努力が必要だけれど、信用という大きな利子が付く」、「自分が一生懸命努力していると、協力して下さる人が現れる。でも、自分がいい加減にしている助けて下さる人は現れない」、「楽しんでお金が儲かる仕事なんて世の中にはない」と、自分が若くて浅はかだった時には気が付かなかった経験から得た知恵をぜひ伝えたいと思います。それでも 10 年、20 年経って、「そうだったか」と気が付くときや、「祖母の味が懐かしい」と気が付くときがあるはずです。

孫たちに信ずるところを伝えたいと思う一方で、伝えても伝わるとは限らない、わからないまま忘れるかもしれないと覚悟しておきましょう。覚悟したうえで諦めないで伝え続けることが重要です。祖母は ATM ではありません。お金を出すことは、その内容について確認することになります。

(祖父母の品格 坂東眞理子より)

## 川崎点描：川崎支部活動拠点

## 【(尾山台付近の昔) ⑦】

天正年間 (1573 年～1593 年) に開拓農民が尾山に入植したそうです。江戸時代に入ると尾山 (小山) は吉良領から伊井領に変わり、六郷用水 (現在の丸子川) 沿いに旧家が集まっていることで分かります。1926 年 (大正 15 年) に玉川全円耕地整理組合結成、耕地整理は現在の住宅地のもとになりました。加えて、風致地区緑地帯の指定を受け、各住宅の塀も三方は生垣、北側だけは万年塀が認められていました。

大正時代と昭和初期の尾山は、農家は茅葺屋根で、東の天慶塚、西野吉根塚周辺に人家は無く、家屋が上と下に約半数位に分かれて点在していました。殆どの農家は畑に囲まれ、境目にはお茶の自給のために多くのお茶の木を植えていました。狐が大正の末期まで狐塚に住みつき、塚の東側の裾辺りに「むじな」が昭和の初期まで横行していたそうです。下方の六郷用水では、小魚やシジミ、蟹などが取れ、田植え前の田園は蓮華の花畑でした。夏の夜は部落全体に蛍が飛び交い、水田ではカエルの大合唱が響きました。

尾山は耕地や戸数が一番小さい部落ですが、神社やお寺を中心にまとまりが良く、何事にも協力奉仕をした様です。近所の交際は家族ぐるみの様で、農家の庭は柿の木や栗の木もあり多くの子供の遊び場でした。

尾山台 1～2 丁目は玉川村字尾山と呼ばれていました。昭和の初めまでの戸数は 28 軒位だったそうです。あとは畑と一部の田んぼでした。玉堤地区の水田は、畑の配置は約 60%、傾斜地が約 40%で、泥道なので上と下の農家への運搬は大変でした。田植え時には馬を駆って、請負で田を耕していました。また畑は一面の大根で、遠く鶴見の海が見渡せる高台でした。夜空は一面の星で、灯台の灯りがぽつんと 1 つ光るだけで、真の闇でした。

## 川崎支部の活動

- ① WEB 総会 (2025.03.30～2025.04.06 の 12 時迄)
- ② 2025.05.10 (土) : 過去を風化させないシリーズ (第 3 回) 第九陸軍技術研究所  
お申し込みは、<https://forms.gle/5jgc6g4qhZrCsKkq9>
  - ・ 1 発あたり数十 kg の兵器積載能力しかない風船爆弾に当初は対人細菌兵器が構想され、後には米国の食糧生産に打撃を与える「牛疫ウイルス」の搭載が準備されましたが、結局は通常の爆弾・焼夷弾になった。
  - ・ 風船爆弾は 1944 年 11 月から 1945 年 4 月にかけて 9,300 発が発射され、多数の女学生たちを動員して製造され、どのような結末になったのか、なぜ陸軍は風船爆弾に強くこだわったのでしょうか

## ご存じですか

### 【名女将の条件】

有名な文筆家・エッセイストの扇谷正造先生の言葉で、名女将の条件は 1.美人でないこと 8 美人だどとにかく情事にかまけて商売が疎かになる) 2.義理人情に厚いこと 3.頭の回転が速いこと 4.時間を守ること 5.いったん会ったお客様の名前を絶対に忘れないこと です。

扇谷先生の有名な言葉に、「人生万般、毎日毎日を問題意識をもって暮らすかどうかは、実は人生の勝負じゃあるまいか」があり、人の心は触れるものによって変わり、すべて人のせいにはしないことと繋がるのではないのでしょうか。

一番苦労している時が、その人の人生が一番素晴らしい時です。

(かみのやま温泉「古窯：大女将 佐藤幸子より)

次号もお楽しみに。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。(連絡先：[k\\_yamagishi@hexel.co.jp](mailto:k_yamagishi@hexel.co.jp) 山岸宛)